

【 概 要 】

平成22年度 民間住宅ローン利用者の実態調査
【民間住宅ローン利用者編】（第1回）

1. 調査の概要

調査対象期間(平成22年3月～平成22年6月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(6/14～6/25)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1,205件。

2. 調査結果の主なポイント

(1) 「変動型」利用割合は45.6%に減少

- ・「変動型」の利用割合は、今回の調査対象期間(平成22年3月から平成22年6月)を通しての割合が45.6%(前回調査:51.8%)に減少している。
「固定期間選択型」は、今回の調査対象期間を通しての割合が32.8%(前回調査:32.7%)とほぼ横這い
「全期間固定型」は、今回の調査対象期間を通しての利用割合は21.6%(前回調査:15.5%)に増加している。 <p2>
- ・年齢別にみても、すべての年代で「変動型」利用割合は、減少している。 <p5>
- ・世帯年収別にみても、「世帯年収1500万円超」の層以外では、「変動型」利用割合は減少している。 <p6>
- ・今後1年間の金利見通しについては、「少し上昇するが、それほど気にするほどではない」と「ほとんど変わらない」がそれぞれ約3割を占めている。「全期間固定型」利用者では「見当がつかない」が13.1%と他の金利タイプと比べ高い水準 <p8>

(2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が65.1%と圧倒的に多い。次いで、「繰上返済手数料が安かったこと」、「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」の順となっている。 <p13>